

大型クラゲ等有害生物出現調査及び情報提供委託事業

長野晃輔

目 的

大型クラゲ（エチゼンクラゲ）等の出現・分布状況を、試験船による洋上調査及び県内漁協・漁業者からの聞き取り等により迅速に把握し、漁業者等に情報提供して漁業被害の軽減を図る。

材料と方法

1. 洋上調査

2019年10月から11月に試験船開運丸、試験船青鵬丸により青森県日本海沖で大型クラゲの目視調査を実施した。

2. 出現量調査

キタミズクラゲは2019年4月から5月にかけて太平洋側の県内漁協に対して電話による聞き取りを行い、大型クラゲは県内の全漁協に対して出現状況（日別、漁協別、漁業種類別）について、メールやFAX等により情報収集を依頼した。

3. 標本船調査

キタミズクラゲは2019年6月から8月にかけて、太平洋側に位置する六ヶ所村漁業協同組合所属の小型定置網漁業者1名に標本船調査を依頼し、入網状況について日報の提出を受けた。大型クラゲは2019年9月から2020年2月にかけて、日本海側に位置する新深浦町漁業協同組合所属の定置網漁業者1名に標本船調査を依頼し、入網状況について日報の提出を受けた。

結 果

1. 洋上調査

本県の日本海沖で10月1～2日、及び11月3～4日の全期間を通じて、大型クラゲの出現は全く確認されなかった（表1）。

2. 出現量調査

(1) キタミズクラゲ

大量出現の情報はなかった。

(2) 大型クラゲ

本年度は大型クラゲの入網や発見情報が2回あった。

これらについては、(一社)漁業情報サービスセンターへ報告したほか、当研究所が発行する漁海況速報に掲載し、漁業関係者へ情報提供を行った。

3. 標本船調査

(1) キタミズクラゲ

標本船調査は6月14日からとなったが、期間を通してキタミズクラゲの出現は極めて少なかった。また、本年度は標本船調査の期間外でもキタミズクラゲの大漁出現の情報は一切なかった。沖網と岡網の比較では期間を通して岡網の方が多いう傾向がみられた。サイズは傘径30センチ以下がほとんどであった（表2）。

(2) 大型クラゲ

調査期間中、大型クラゲの入網はなかった（表3）。

表 1. 2019 年度大型クラゲ目視調査結果

調査月日	表面水温	目視個体数	調査船名
10月1日～2日	20.1～23.2℃	0	青鵬丸
11月3日～4日	13.9～18.7℃	0	開運丸

表 2. 2019 年度キタミズクラゲ標本船調査結果（六ヶ所村漁協、小型定置網）

月	調査日数	乗網日数 (%)	個体数			水温 (°C)	被害の有無
			大型 (31cm以上)	中型 (21～30cm)	小型 (11～20cm)		
6	17	5(29.4)	0	70～100	6	13～14℃	なし
7	31	10(32.3)	0	80～180	0	14～18℃	なし
8	24	7(29.2)	0	10～30	0	18～21℃	なし

表 3. 2019 年度大型クラゲ標本船調査結果（新深浦町漁協、小型定置網）

月	調査日数	乗網日数 (%)	個体数			水温 (°C)	被害の有無
			大型 (100cm以上)	中型 (51～99cm)	小型 (50cm以下)		
9	13	0(0)	0	0	0	-	なし
10	27	0(0)	0	0	0	-	なし
11	25	0(0)	0	0	0	-	なし
12	26	0(0)	0	0	0	-	なし
1	25	0(0)	0	0	0	-	なし
2	24	0(0)	0	0	0	-	なし